

成育医療センター見学記

からだのとしよしつボランティア見学会の第4回目として11月27日(金)に、世田谷区にある国立成育医療センターへ伺いました。

成育医療センターのボランティア活動は6つあり、登録したボランティアは、病院全体の流れを知るために、まず外来ガイドを経験してから、希望のセクションで活動されています。

図書活動をしている「にじいろ」は、“全館が図書室”というコンセプトで、病棟や外来デイルームの書架にある児童書や学習書を、保育士さんや看護師さんと連携して交換しています。一番人気の本は「アンパンマン」だそうです。

その他のセクションのボランティアも、オレンジ色のエプロンを着けてイキキと、自分の好きな事、やりたい事、できる事で、活動に参加されていました。

この病院を訪れる多くのお子さんとその保護者の方々が、心おだやかに過ごせるように、いろいろなところで、心のこもった、きめ細かい活動が行われており、その熱意が感じられるとても有意義な見学会でした。

ご案内くださった、ボランティアの会の前理事長さん、事務局長さんに感謝いたします。(い)

発行：からだのとしよしつ ボランティアグループ
からだのとしよしつ (東邦大学医療センター大森病院 2号館 3階)
開室日時：9:30~16:30 土・日・祭日はお休みです。
WEB版「からだのとしよしつ」でも資料と探し方のご案内をしています。
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/>

東邦大学医療センター大森病院

からだのとしよしつ

だより

(8号 '09. 12. 15)

【資料の紹介】 おすすめの一冊

『お医者さんの話がよくわかるから安心できる

「胃がん」と言われたら・・・』

(平山廉三・松木盛行著 保健同人社 2009)

■ この本を一番読んでいただきたいのは、胃がんと診断されて、手術・治療を待っている方、手術・治療が終了した方、残念ながら再発を告げられた方、そしてご家族の方です。(まえがきより抜粋)

■ 胃がんのさまざまな手術法から、最近よく耳にするスキルス胃がんや、手術できない胃がんのことまで、最新の検査・治療法がわかりやすく解説されています。

■ 担当医に質問したいことを整理するため、ご自身の場合と比べながら、この本を読まれてはいかががでしょうか。

■ A5版 151p. ¥1,575です。(Os.)



大森病院「なのはな文庫」



「なのはな文庫」について、簡単にご説明いたします。

この活動は、入院患者さんのアメニティ向上の一環として始められました。入院病棟の各デイルームにおもむき、本棚の本を整理整頓し、不要の本と新しい本を交換したり、適宜補充したりするものです。

計画当初から病院側のご理解をいただけたので、実施の具体策について、ボランティアの有志が集まり、昨年6月ごろより約一年間、毎月会議で話し合っ準備をしておりました。これまで、一部例外を除いて、ボランティアが定期的に病棟に立ち入ることがなかったので、慎重に検討を重ねてまいりました。

そして、ようやく今年8月に「なのはな文庫」としてスタートすることができました。始めてまだ4ヶ月あまりですが、患者さんや看護師さんからは好評をいただいていると聞いて安心しているところです。



名前の由来は、ボランティアのシンボルカラーが黄色なので、同じ色の可憐な菜の花からいただきました。現在、ボランティアは男女6名、サポートに司書が1名です。

毎週火曜日の午後、各病棟のデイルームを本を積んで巡回しています。活動にあたっては、守秘義務を守ることはもちろん、身なりを清潔にしたり、病院職員の邪魔にならないように気をつけています。

本の補充では、近くの大森西図書館の協力で、リサイクル本をいただけるのがとてもありがたいです。最近では、患者さん、職員、ボランティアからも本の寄贈があって感謝しております。

あるとき、女性患者さんから、料理の本はないかと聞かれたときは、盲点をつかれたような気がしました。料理本までは気が回らなかったもので、それからはこういう本も意識して補充するようにしています。

将来的には、患者さんの欲する本をベッドサイドまでお届けできることが夢です。なかなか難しいことですが、図書館と病院と深く連携を保っていけば、できないことはないと考えています。

これからも「なのはな文庫」の活動を温かく見守っていただけたら幸いです。(H.I.)

